

シラバス (授業計画書)

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科目名	キャリアガイダンス(688)				教科区分	一般教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	荻沼 隆				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。</p> <p>習得した知見をもとに、必要に応じて応用的な取り組みを行い、その習熟度に加え、各種試験の模擬問題を通じて習得状況を確認することがある。</p>						
授業形態	演習	教室	164 教室	補助教員	なし	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教科書 教材	仕事力を身に付ける 20 のステップ					

授業計画・内容

【前期】	
1～3回	就活とコミュニケーションのつながりを理解する
4～6回	意見をつくる力
7～9回	聞く力・話す力
10～12回	自己理解
13～16回	仕事理解
【後期】	
1～3回	自己PR作成
4～6回	トークセッション
7～9回	就活成功3ヶ条
10～12回	選考基礎 (ビジネスマナー、敬語等)、書類選考 (ガクチカ作成体験)
13～15回	面接 (個人・グループディスカッション)
16回	まとめ
<p><授業外学修時間></p> <p>授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。</p> <p>また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。</p> <p>必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。</p> <p>担当教員は、授業外学修時間を確実に進めさせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>	

評価コード	11
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点(出席および受講の状況)を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科目名	コンピュータ基礎(690)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	北畑 良祐・松田 栄代				実務経験内容	
					<p>[北畑] システムエンジニアとしてアプリケーション開発業務に従事。その際の知識・経験を活かして講義をする。</p> <p>[松田] システムエンジニアとして、損害保険会社のオンラインシステムや銀行の業務処理システム、Webサイトの管理システムなどの設計・構築を担当。その際の知識・経験を活かして講義をする。</p>	
週授業	1年次	2年次	3年次	4年次		
時間数	8	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>情報処理の検定試験、国家試験合格を目指す。ハードウェア、ソフトウェア、情報処理システムなど分野ごとに習熟度を高めて総合的な知識を身に付ける。身に付けた基礎知識を活かして、上級学年では応用情報技術者試験合格を目指す。</p> <p>習得した知見をもとに、必要に応じて応用的な取り組みを行い、その習熟度に加え、各種試験の模擬問題を通じて習得状況を確認することがある。</p>						
授業形態	講義	教室	配信 および 164 教室	補助教員	なし	
教科書を使用して座学形式で実施する。演習問題は適宜授業内で配布したり、ウェブの学習サイトを使用して解答したりする。学習サイトを使用する際はノート型パソコンを使用する。						
教科書 教材	IT ワールド（毎授業で使用） 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容

<p>【前期】</p> <p>IT ワールド</p> <p>1～8回 基本構成、データ表現、中央処理装置と主記憶装置、問題演習</p> <p>11～16回 補助記憶装置、入出力装置、情報処理システムの処理形態、問題演習</p> <p>17～24回 高信頼化システムの構成、情報処理システムの評価、問題演習</p> <p>25～32回 ソフトウェアの分類、OS、言語と言語プロセッサ、ファイル、基本情報技術者試験対策演習</p> <p>IT 戦略とマネジメント</p> <p>1～4回 企業と法務、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ</p> <p>5～12回 情報システム戦略、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント</p> <p>13～16回 システム監査と内部統制、基本情報技術者試験午前対策演習</p> <p>【後期】</p> <p>IT ワールド</p> <p>1～16回 基本情報技術者試験対策演習問題</p> <p>17～32回 応用情報技術者試験午前対策演習問題</p> <p><授業外学修時間></p> <p>授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。</p> <p>また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。</p> <p>必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。</p> <p>担当教員は、授業外学修時間を確実に実行させるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
評価コード	3					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。
------	---

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科目名	アルゴリズム(723)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	林 秀聡				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>コンピューターでの処理手順をフローチャートと擬似言語で記述できるようにすることにより、プログラミングスキル向上へとつなげる。また、国家試験、各種検定で出題される問題についての対策を行う。</p> <p>習得した知見をもとに、必要に応じて応用的な取り組みを行い、その習熟度に加え、各種試験の模擬問題を通じて習得状況を確認することがある。</p>						
授業形態	講義	教室	164 教室	補助教員	なし	
<p>テキストを使用し、座学形式で実施する。理解度の確認を行う目的で、問題演習を随時実施する。</p> <p>理解度を深めるための授業資料（データ）も扱うので、ノート型パソコンを使う。</p>						
教科書 教材	<p>擬似言語で学ぶアルゴリズム（毎授業で使用）</p> <p>貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）</p>					

授業計画・内容

<p>【前期】</p> <p>1 回 アルゴリズムと流れ図</p> <p>2～3 回 変数</p> <p>4～5 回 擬似言語</p> <p>6～8 回 基本データ処理</p> <p>9～12 回 配列</p> <p>13～16 回 探索処理</p> <p>【後期】</p> <p>1～8 回 整列処理</p> <p>9～11 回 データ構造</p> <p>12～14 回 オブジェクト指向</p> <p>15～16 回 総合演習</p> <p><授業外学修時間></p> <p>授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。</p> <p>また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。</p> <p>必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。</p> <p>担当教員は、授業外学修時間を確実に進めさせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

評価コード	3	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。 	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科目名	プログラミング技法 I (724)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	荻沼 隆				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	9	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>将来の IT エンジニアとして、プログラミングは必須である。本授業では、Java（プログラミング言語）を学習する。今使われている多くの言語が、オブジェクト指向プログラミングを実現しており、Java を学ぶことで、オブジェクト指向の考え方を身に付け、卒業後社会で通用するプログラマを目指す。また、基本的なアルゴリズムも同時に習得し、1 年次下期または 2 年次上期の基本情報技術者試験合格も目指す。</p> <p>習得した知見をもとに、必要に応じて応用的な取り組みを行い、その習熟度に加え、各種試験の模擬問題を通じて習得状況を確認することがある。</p>						
授業形態	講義	教室	164 教室	補助教員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。						
教科書 教材	スッキリわかる Java 入門 第 4 版 オラクル認定資格教科書 Java プログラマ Bronze SE スピードマスター問題集 試験番号 1Z0-818 対応 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容

【前期】

- 1～2 回 プログラミング環境構築、Java プログラムの書き方（プロジェクト、クラスファイルの作成）
 3～5 回 コンソールへの出力、変数宣言、リテラル、演算、演習
 6～9 回 条件分岐(if 文、switch 文)、演習
 10～14 回 繰り返し(for 文)、演習
 15～20 回 繰り返し(while 文、do-while 文)、演習
 21～27 回 二重ループ、無限ループ、演習
 28～31 回 配列、演習
 32～35 回 多次元配列、演習
 36～40 回 メソッド、演習
 40～48 回 複数クラス構成、演習

【後期】

- 1～8 回 プログラム作成演習 1
 9～16 回 プログラム作成演習 2
 17～24 回 プログラム作成演習 3
 25～32 回 プログラム作成演習 4
 33～40 回 プログラム作成演習 5
 41～48 回 プログラム作成演習 6

<授業外学修時間>

授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。
 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。
 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。

担当教員は、授業外学修時間を確実にこなすため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。

評価コード

3

評価方法

- 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。
- 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。
 - 出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。
 - 上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。
- 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科目名	システムデザイン I (841)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	古谷 征志				実務経験内容	
					[古谷]システムエンジニアとして、社内・社外の業務システムの構築・運用を担当。販売管理・物量管理・人事・給与・労務・勤怠・シンククライアント・Webシステム構築等の知識・経験を活かして、システムの要件定義から設計・運用・保守を講義する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>システムを構築するたされるのか知識を習得する。 SLCP（システム・ライフ・サイクル・プロセス）について、システムとはどのように構築・運用・保守されるのか。ウォーターフォール型開発、アジャイル型開発など、各種システム設計技法の基礎知識を座学中心で学んでいく。 Webシステムの概要についても。システムエンジニアとしての知識習得を目的とするとともに、基本情報技術者試験合格をはじめとした、情報処理技術者試験合格も目指す。 習得した知見をもとに、必要に応じて応用的な取り組みを行い、その習熟度に加え、各種試験の模擬問題を通じて習得状況を確認することがある。</p>						
授業形態	演習	教室	164 教室	補助教員	なし	
<p>テキストを主に座学形式で実施し、システムエンジニアとしてのシステム設計に関する基本スキルを身につける。 また、国家資格取得を視野に入れた形の問題演習も同時に行う。</p>						
教科書 教材	IT ワールド/IT 戦略とマネジメント					

授業計画・内容						
<p>【前期】 1～6回 システム開発技術（SLCP 開発プロセス）、演習問題 7～12回 ソフトウェア開発技術、演習問題 13～16回 基本情報技術者試験対策演習</p> <p>【後期】 1～6回 システム開発環境、演習問題 7～12回 Web アプリケーション開発、演習問題 13～16回 総合演習</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						

評価コード	11					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。 					

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科目名	データベース I (728)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	笹岡 寛				実務経験内容	
					【笹岡】データベースエンジニアとしてシステムのデータベース設計・構築・運用・教育を担当し、Oracle Platinum を取得。さらに行政機関におけるデジタル業務の経験を踏まえ、実務に基づいたデータベース関連の講義を行う。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	4	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
コンピュータシステムに不可欠であるデータベースについて、その基礎知識を学ぶとともに、データベースを操作する言語である SQL についても学ぶ。また、データベースの管理等の手法についても学び、システムエンジニアとして必要とされるスキルを身につける。さらに、国家資格である基本情報技術者試験取得を目指すとともに、上位資格につながる知識も修得する。 習得した知見をもとに、必要に応じて応用的な取り組みを行い、その習熟度に加え、各種試験の模擬問題を通じて習得状況を確認することがある。						
授業形態	講義	教室	164 教室	補助教員	なし	
前期は、テキストおよび配布資料を使用し、座学形式で行う。国家資格や各種検定取得も視野に入れながら、問題演習も実施する。定期的に小テストを行い、知識の定着を目指す。 後期は、貸与している各自のノートパソコンを使い、実際に SQL を入力・実行することで動作を確認する。						
教科書 教材	IT ワールド 改訂第 4 版 すらすらと手が動くようになる SQL 書き方ドリル 教員が用意する補助教材 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容	
<p>【前期】</p> <p>1 回 初回ガイダンス、目標資格と関連資格の紹介 2 回 データベースの概要、問題演習 3～4 回 データモデル、問題演習 5～6 回 トランザクション処理、問題演習 7～8 回 E-R 図と関係 DB、問題演習 9～11 回 SQL、問題演習 12 回 いろいろなデータベース、問題演習 13～16 回 基本情報技術者試験 対策演習</p> <p>【後期】</p> <p>1～6 回 1 つのテーブルを扱う 7～18 回 複数のテーブルを扱う 19～30 回 追加・更新・削除 31～42 回 データベースで実現しよう 43～48 回 応用問題</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>	
評価コード	3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。
------	--

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科目名	ネットワーク(712)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	奥田 悟				実務経験内容	
					[奥田] プログラマ・システムエンジニアとして、企業の基幹システムの構築、開発を経験した。これらの経験を活かし、オブジェクト指向型の設計、UML によるコミュニケーションについて講義する。	
週授業 時間数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>ネットワーク技術の代表的なものである、インターネットや LAN についての仕組みを中心に、基礎知識を理解していく。</p> <p>ネットワーク技術は、学校や企業では勿論のこと、一般家庭においても無くてはならないものとなっている。また、国家試験、各種検定で出題される問題についての対策を行う。</p> <p>習得した知見をもとに、必要に応じて応用的な取り組みを行い、その習熟度に加え、各種試験の模擬問題を通じて習得状況を確認することがある。</p>						
授業形態	講義	教室	配信	補助教員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノートパソコンを使った演習も行う。演習で使う題材は、教科書内のものだけでなく、ファイルサーバにあるものを利用する。						
教科書 教材	IT ワールド(前期毎授業で使用) 図解入門 TCP/IP(後期毎授業で使用)					

授業計画・内容

<p>【前期】</p> <p>1～2 回 インターネット 3～5 回 ネットワークアーキテクチャ 6～8 回 LAN 9～11 回 ネットワークの仕組み 12～14 回 ネットワーク管理 15～16 回 総合演習</p> <p>【後期】</p> <p>1～2 回 ネットワークの基礎 3～4 回 物理層 5～6 回 データリンク層 7～10 回 ネットワーク層 11～12 回 トランスポート層 13～16 回 アプリケーション層</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にに行わせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験(100 点満点)の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点(出席および受講の状況)を 20 点の配点とする。成績の評定は、S(90～100 点)、A(80～89 点)、B(70～79 点)、C(60～69 点)、F(60 点未満)である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 追試験(100 点満点)の点数は、次の(1)または(2)とする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 出席停止となる疾病(医師の診断書のある者)および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者(証明書のある者)ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を越えた場合は、60 点を越えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 (2) 上述(1)以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を越えた場合は 60 点とする。 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均(1 点未満については切り上げ)を成績の評定とする。
------	--

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科目名	Web デザイン(727)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	朝倉 奈美				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	1	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>Web サイトの制作に必要な知識（HTML と CSS）を学ぶ。 Web サイトの構造を表記する HTML ではユーザーが入力する画面（フォーム）記述方法、デザイン部分を表示する CSS ではモバイルサイトに対応したレイアウトの記述方法も理解する。 習得した知見をもとに、必要に応じて応用的な取り組みを行い、その習熟度に加え、各種試験の模擬問題を通じて習得状況を確認することがある。</p>						
授業形態	実習	教室	164 教室	補助教員	新美 あゆみ	
<p>授業はテキストに従って進める実習形式で行い、理解度を深めるためにオリジナルページの制作も行う。 また、授業毎に提出を行い教員側で理解度を把握する。</p>						
教科書 教材	<p>スラスラわかる HTML&CSS のきほん 第3版（毎授業で使用） 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）</p>					

授業計画・内容

【前期】	
1 回	HTML の基礎、制作の準備と基本の HTML
2～ 4 回	テキストの表示（見出し、段落、リスト、要素のグループ化）
5 回	テーブル
6 回	リンク、パスの理解
7 回	画像の挿入
8～10 回	CSS の基礎（テキスト、背景色のスタイル）
11～12 回	CSS の基礎（ボックスモデル、画像の伸縮）
13～14 回	オリジナルページの作成
15～16 回	テスト、解説
【後期】	
1～ 2 回	前期の復習
3～ 6 回	スタイルの上書き、レイアウト
7～ 8 回	2 ページ目以降の作成、レイアウト
9～10 回	フォームの作成、スタイル
11～12 回	モバイル端末に対応
13～14 回	オリジナルページの作成
15～16 回	小テスト、解説
<p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実に進めさせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>	

評価コード	13
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス (授業計画書)

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科目名	ゼミナール I (936)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	荻沼 隆				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	6	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>将来の IT エンジニアとして、IT の知識・技術の習得は必須である。本授業の前期では、目標となる資格試験の合格を目指すための講座、問題演習を行う。特に国家試験である情報処理技術者試験への合格を目標とする。そのため、始めに情報処理技術者能力認定試験 2 級 1 部、各種修了試験への合格を目指す。</p> <p>後期では IT 技術の向上を目指し、GUI アプリケーションの制作を行う。この授業および演習を通じて、プログラミングスキルの向上も図る。</p> <p>習得した知見をもとに、必要に応じて応用的な取り組みを行い、その習熟度に加え、各種試験の模擬問題を通じて習得状況を確認することがある。</p>						
授業形態	演習	教室	164 教室	補助教員	なし	
<p>前期の授業は問題演習や模擬試験での学習を主とするが、適宜ノート型パソコンを使った実習も行う。また、理解度を確認するプリント学習も行い知識の定着を行う。</p> <p>後期の授業はテキストおよびノートパソコンを使用し、GUI アプリケーションの制作が可能なプログラミング言語である C# を用い、プログラム作成演習を中心に授業を実施する。</p>						
教科書 教材	貸与ノート型パソコン (授業内で適宜使用) 作って覚える Visual C# 2022 デスクトップアプリ入門					

授業計画・内容

【前期】	
1～4 回	前期授業ガイダンス、基礎知識獲得演習 (数学、情報セキュリティ)
5～18 回	情報処理技術者能力認定試験 2 級 1 部に関する問題演習、まとめ演習問題
19～28 回	各種修了試験に関する問題演習、まとめ演習問題
29～32 回	総合演習、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験 過去問題演習
【後期】	
【Visual C#】	
1 回	Windows 用アプリケーションの基礎 Visual Studio Community 2022 の基本操作
2～4 回	プログラム作成の基本を覚える
5～6 回	「タイマー」の作成
7～9 回	「付箋メモ」の作成
10～12 回	「今日の占い」の作成
13～16 回	「間違い探しゲーム」の作成
17～27 回	オブジェクト指向プログラミングの考え方
28～32 回	「間違いボール探しゲーム」の作成
<p><授業外学修時間></p> <p>授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。</p> <p>また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。</p> <p>必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。</p> <p>担当教員は、授業外学修時間を確実に実行させるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>	

評価コード

11

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点 (出席および受講の状況) を 40 点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。
------	---

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科目名	Windows 実習 I (934)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	新美 あゆみ				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	1	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>パソコンの基本操作から Excel・PowerPoint の様々な機能や活用方法など基本的技術と知識を実習形式で学習する。前期 Excel・後期 PowerPoint と、それぞれ資格取得を目指し、就活に役立てる。</p> <p>また、テキストの内容終了後には、身につけた Office ソフトの基本的技術と知識を活かし、実際の仕事で応用が利くよう、実務をイメージした補足資料を配布し、演習を行う。</p> <p>習得した知見をもとに、必要に応じて応用的な取り組みを行い、その習熟度に加え、各種試験の模擬問題を通じて習得状況を確認することがある。</p>						
授業形態	実習	教室	164 教室	補助教員	野畑 祐子	
授業は実習形式であり、実習は、配布しているノート型パソコンを使用する。						
教科書 教材	Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 対策テキスト& 問題集 Microsoft Office Specialist MOS PowerPoint 365 対策テキスト& 問題集 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容

<p>【前期】 【Excel】 1 回 Windows の基本的な使い方・テキスト事前学習 Excel 基本操作 2～4 回 出題範囲 2_セルやセル範囲のデータの管理 5～8 回 出題範囲 4_数式や関数を使用した演算の実行 9 回 出題範囲 3_テーブルとテーブルのデータの管理 10 回 出題範囲 5_グラフの管理 11～12 回 出題範囲 1_ワークシートやブックの作成と管理 13～16 回 模擬演習</p> <p>【後期】 【PowerPoint】 1 回 スライド作成の基本操作 2～3 回 出題範囲 3_テキスト・図形・画像の挿入と書式設定 4～5 回 出題範囲 4_表・グラフ・SmartArt・3D モデルの挿入 6 回 出題範囲 5_画面切り替え・アニメーションの設定 7 回 出題範囲 2_スライドの管理 8～9 回 出題範囲 1_プレゼンテーションの管理 10～12 回 模擬演習 13～16 回 総合演習</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなすため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>	
評価コード	13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。
------	--